

平成22年度 佐賀県立佐賀工業高等学校（全日制）学校評価結果

NO. 1

1 学校の教育目標
歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。 校訓「至誠剛健」（誠実で心身ともに逞しく）

2 本校の経営ビジョン
教育活動の根本に「人間教育」を据え、「人間性・心」「体力・気力」を養い、その上に「知識・技術・技能」を積み上げ、自らを高め、社会に貢献できる有能な技術者を育成する。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>生徒一人ひとりが、それぞれ夢を持ち、その実現のため、短期の目標、中・長期の目標を掲げ、日々努力する。</p> <p>教職員は、教育のプロとして、保護者や地域あるいは産業界等と連携し、一丸となって生徒の目標達成を支援していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲を高める授業の実践と学力及び技術・技能の確かな定着 ○ 早期からの体系的なキャリア教育の推進 ○ ものづくり、資格取得、コンテスト参加の推進と実績向上 ○ 自主性を育てる生徒会活動、部活動、ボランティア活動の推進 ○ 挨拶・服装・マナーアップ指導の徹底と5S運動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進 ○ 保護者、地域、産業界、同窓会等との連携強化 	<p>評価は毎年良くなっており、目標は概ね達成できたとの意見が多かった。5年連続100%の就職内定率をめざし、保護者の満足度もアンケート項目の中でも一番高い値でAの評価をいただいた。これを維持する意味でも、進路に対する取り組みを全校あげて実践し、万全の対策をとらなければならない。特に家庭学習に関しては、保護者、職員ともに評価が低い。週末課題など、家庭での学習の定着にはまだまだ根気強く指導をしていく必要がある。大きな理由として、本校では、部活動をする生徒が多いため時間的余裕がなく、家庭でせずに学校に来てからする生徒も多く、部活動と学習時間の確保の両立を図っていく必要がある。</p> <p>来年度は、就職に対する取り組みを各科各部の協力体制を築きながら静穏共も含め、全校で対策を練る予定にしている。また社会生活をしていく上でも、挨拶・服装指導はもとより、規範意識やマナーについてはさらなる向上を図っていく必要がある。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 生徒一人ひとりの夢の実現のために プロジェクト「SAKO V」の推進 </div>	

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的な目標	具体的方策		成果と課題
学校経営	○学校の経営方針	学校経営ビジョン・本年度の重点目標の周知	・学校経営ビジョン ・本年度の重点目標の周知を図り、保護者の周知率60%以上を目指す。	・学校の教育目標、経営ビジョンをわかりやすく解説した資料を作成して、教育後援会総会、地区保護者会、佐工だより、学校ホームページ、及びEDQニュースで保護者への周知を図る。	A	教育後援会総会で学校長自らパワーポイントを使った説明を行うなど、学校経営ビジョンの保護者への周知に積極的に取り組んだ。また学校ホームページの頻繁な更新や、佐工だよりの発行、マスコミへの静穏共などにより、学校教育活動の積極的な外部発信も行った。
	○教育後援会活動の活性化	地区保護者会、後援会総会・役員会・評議員会等における保護者の出席率の向上	・地区保護者会の出席率を80%以上にする。 ・後援会総会において45%以上の出席率を目指す。	・総会は、保護者の要望を取り入れて土・日曜日に実施する等、出席率アップを目指す。 ・教育後援会の役員及び評議員に総会参加の呼びかけを依頼する。 ・総会時に実習・授業参観及び進路説明会を実施し、参加者の勧誘を図る。 ・地区保護者会、総会の案内をホームページ、佐工だより、EDQスクールニュースに掲載する。 ・欠席者保護者会を実施する。また、その案内の徹底を図る。	A	文化祭におけるバザーやイベントでの参加、3年生を送る会の開催など、学校行事に積極的に協力してもらうことができた。後援会総会を土曜日に開催し、普段できない授業や実習の見学をもらうことで、本校教育活動の理解を深めてもらうこともできた。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な 評価項目)	具体的な目標	具体的な方策		成果と課題
教育活動	●学力の向上	定期考査問題の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導内容や進捗状況を把握するために、考査前に教科内の検討会を行う。 ・論理的思考力を身につけさせるため、論述問題を10%以上出題する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の問題は、教科内で検討し、50分の考査問題として論述問題等、質・量の検討を行う。 ・教科内において、答案の誤答分析を行い、不得意とする分野を先出し、授業に反映させる。 ・定期考査問題作成に反映させるため、考査問題は教科内で保管する。 	B	定期考査問題に関しては、各教科で問題検討会等を実施したり、論述問題を取り入れるなどの工夫を行った。論述等に苦手意識を持つ生徒もおり、それらの生徒に対する指導を考えていくことが課題である。
		家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・各考査における欠点数を10%減らす。 ・小テストの年間平均9点以上を10%増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科間で連携を取り、計画的な週末課題を課す。 ・教科書の持ち帰りの指導を強化する。 ・各教科科目の小テストの結果から学習の達成状況を把握し、考査前の指導を充実させる。 ・計画的に学習できるように『学習の計画と記録』表を並び出し、実行させる。 ・朝小テストの意識について指導を徹底し、学習への意識付けを図る。 	C	自主学習ノートを配付し、担任が1日1ページの自主学習に取り組みせたり、教科から週末課題を出すなどの指導を継続した。その成果が小テストの成績(1年生平均9点以上125名等)にも反映された。家庭学習習慣の定着については、職員による評価が低く、今後も指導を継続し必要がある。
		学力向上のため授業時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位の年間授業時数が35単位時間となるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を精選し、授業時間の確保に努める。 	B	今年度も授業時間確保のために、曜日の振り替えや、行事等を行うときも間に授業を入れるなどの取り組みを行った。
		資格取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各科の重点資格と基礎資格の合格率10%増を目指す。 ・ジュニアマイスターのゴールドとシルバー取得者の10%増を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科の重点資格と全員が受験する基礎資格の内容等を生徒に充分説明し、資格取得の意義を理解させ、意識の高揚と取得意欲の向上に努める。 ・資格取得とジュニアマイスターポイント表の年間補習計画を作成して、受験資格の精選及び補習体制の見直しを行い、補習内容と家庭学習の充実を図る。 	A	各学科ごとに資格取得指導に熱心に取り組み、多くの生徒が合格の栄誉を勝ち得た。特に本年度は技師などの難しい国家資格合格者も増出した。今後も資格取得に対する意識付けを継続していきたい。
○安全教育	工業科の実習や課題研究における安全教育の徹底 安全点検の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や課題研究において危険防止や安全教育の時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の始めに安全作業の心構えと服装指導を行い、終了時に実習室の5S運動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)に取り組みせ、安全教育の徹底を図る。 	A	実習時には、作業前の安全確認、作業後の青掃・整理整頓の徹底を行うなど、整理・整頓・清掃・清潔、躰の「5S運動」を描進し、安全教育の徹底をはかることができた。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・3年に一度の実習棟の安全診断を実施する。 ・毎月1回以上校内の安全点検を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回実習棟の大掃除を学校全体で実施し、安全意識を高める。 ・校内の各箇所を主任等で分担し、点検項目に従って確認しその結果を毎月校内LANで報告する。 			
○進路指導	進路希望の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成などキャリア教育の推進を図る。 ・3年生の進路を100%達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学履修等で基礎学力向上に努める。 ・1年生の職業人インタビューや2年生のインターンシップまた3学期実施の「進路ガイダンス」等の実施で職業観・勤労観の育成を図る。 ・進路一担当の連絡を密にして生徒の適性と希望にあった進路先の情報提供と助言に努める。 ・企業200+α社の訪問を実施し、確実に求人票を獲得する。 ・面接指導の充実(集団討議を実施)。 ・企業が就職会(6月、3月末)の実施。 ・SPI試験(中間・期末考査)の実施。 	A	「SAKO V」の取り組みもあり、生徒の進路実現に向けて、進路指導部を中心に全職員で取り組んだ結果、景気が低迷する中、一次就職合格率87%、6年連続100%の進路決定を達成することができた。来年度は求人がさらに厳しくなることが予想されるため、面接指導の早期の取り組み等を行う必要がある。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な 評価項目)	具体的な目標	具体的な方策		成果と課題
特定 課題	ICT活用による教科指導力の向上	教科指導の改善	・全ての教科で、ICTを活用した授業展開を実践して生徒の基礎学力向上を図る。	・ICTを活用した授業展開ができるように、各科で教材のデータベース化を図り、生徒の興味関心を高める研究授業を実践して基礎学力の向上に繋げる。	B	ICTを活用した授業実践では、生徒の興味を引き出した視覚からの理解面で有効であった。パソコン室に比べ普通教室では準備が大変な面もあったが、写真や図を見せる場面でよく活用できた。

6 総合評価

本年度、新たに学校プロジェクト「SAKO V」を立ち上げ、生徒進路実現に向けた指導に全職員で取り組んだ。①コミュニケーション能力の育成 ②基礎学力の向上 ③キャリア教育の充実 のために各部署で具体的な指導方策を工夫・設定して実践した結果、就職実績において昨年度76%であった1次合格率が87%上昇するなど、その成果があらがりつつあり、6年連続進路決定率100%を達成することができた。保護者との連携においては、教育後援会で「3年生を送る会」などの独自の活動を企画・実施してもらったり、体育祭や文化祭への保護者の参加も大変多しなど、保護者の佐賀工業への関心や協力度は高いものがある。今後もこれらの行事等を活用して、保護者と連携を図りながら学校運営の活性化を推進していきたい。ものづくりを生かした地域貢献については、パーキングパーミット標示板の製作、特別支援学校の教具製作と交流、小学生を対象とした「ものづくり教室」の開催、「キューボラ実習」の小学生見学会の実施などに取り組み、その活動がマスコミ等に紹介され、ものづくりを通じて社会に貢献したいという生徒のモチベーション向上にも大きく役立った。

7 次年度に向けた改善策・向上策

学校プロジェクト「SAKO V」を立ち上げ、進路指導院を中心に進路実現に向けて全職員で取り組んだ結果、6年連続100%の進路決定を実現することができた。来年度は東日本大震災の影響等で求人がさらに厳しくなることも予想されるため、「SAKO V」の取り組みを推進しながら、生徒の進路実現に向け、高校三年間の流れを重視したキャリア教育の充実をさらに図っていく必要がある。特に3年生については、面接指導や作文指導等の具体的な指導に早期から取り組んでいきたい。家庭学習習慣の定着に関しては、職員、保護者アンケートともに評価が低い。自主学習ノートによる1日1ページの自主学習や週末課題等の指導を今後も根気強く継続していく必要がある。基本的な生活習慣の確立については、本年度は問題行動の減少傾向であったため、挨拶・服装指導はもとより、規律意識の醸成や自転車マナー指導に全職員であたっていく体制を強化していく必要がある。保護者との連携や地域貢献については、本年度の取り組みをさらに継続していくことで、学校全体の教育力向上につなげていきたい。

平成22年度 学校評価 保護者アンケート 集計結果

佐賀工業高等学校

①本校の教育目標や経営ビジョンを保護者の方々が周知されるように、学校は努力していると思えますか。

②-1 本校のホームページや携帯電話のEDQスクールニュースの周知について学校は努力していると思えますか。また、ホームページの更新は十分と思えますか。

②-2 緊急時など重要なお知らせは携帯サイトに載せておりますが、よくご覧になっておりますか。

③教育後援会の総会・役員会・評議員会は、毎年改善されていると思えますか。(保護者との連携という意味で)

④通知表やテスト個票は、生徒の学習状況が理解できる内容になっていると思えますか。

⑤家庭学習の定着を目指して、教科間で連携を取り計画的な週末課題を出すようにしましたが、実行されていると思えますか。

⑥自分の子どもは、授業についていけていると思えますか。

⑦読書活動の充実に向け、新刊図書の紹介や読書会の見直し等を行っていますが、図書活動に努力の跡は見えますか。

⑧進路指導において生徒が希望する企業や大学等に進めるように進路ガイダンス等に力を入れているが、十分と思えますか。

⑨基本的な生活習慣の確立・素直な態度の育成に向け、遅刻欠席を減らし、生徒の皆勤賞80%を目標として指導していますが努力の跡が見えますか。

⑩本校に入学させてよかったと思えますか。

⑪各科、資格取得指導を行っていますが、種類や指導内容は十分だと思えますか。

⑫生徒の進路を実現するための学校プロジェクト「SAKO V」の推進に向け、学校は努力していると思えますか。

集計結果

- 4 大変該当する
 3 おおむね該当する
 2 あまり該当しない
 1 殆ど該当しない

	4	3	2	1	無	平均
①	13	73	9	1	4	3.00
②1	12	57	19	3	9	2.82
②2	19	28	32	16	6	2.50
③	5	62	16	2	16	2.77
④	17	68	12	2	2	3.01
⑤	13	59	21	2	5	2.87
⑥	8	61	25	3	2	2.75
⑦	4	41	38	5	11	2.50
⑧	20	59	10	2	9	3.04
⑨	30	58	6	2	5	3.21
⑩	54	38	5	1	2	3.47
⑪	29	57	9	2	4	3.15
⑫	20	62	8	1	9	3.09

※単位(%), 平均は4段階評価の平均値

回答者数: 1・2保護者 537名